

備前市事務事業評価シート

(平成24年度事業)

事業の概要		事業開始年度		根拠法令・例規等	生きがい創造事業実施要綱 備前市シルバーカード交付要綱 備前市地域支え合い体制づくり事業費補助金交付要綱	
大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり			
中項目	基本施策	01	やさしさあふれるまちづくり	問	担当課(室)	介護福祉課
小項目	施策	04	高齢者福祉	合	職・氏名	高齢者福祉係長 森 優
事務事業名		01	生きがい創造事業	先	電話	0869-64-1827
					このシート作成に要した時間	2.5 時間

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	生きがいと創造の事業：老人クラブ会員 シルバーカード交付事業：65歳以上高齢者 市内自治体又は町内会、市内を活動区域としている特定非営利活動法人、社会福祉法人、福祉サービス事業者など	目的(何のために)	在宅高齢者の知識と経験を生かし、その能力と意欲に応じた生産又は創造的活動によって生きがいの高揚を図ることを目的とする。シルバーカードの発行により、家に閉じこもりがちな高齢者が外出するきっかけをつくる。日常的な支え合い活動の体制づくりを推進することを目的とする。
事業の意図する成果(どのような状態にしたのか)		高齢者の外出や社会参加促進を図り、社会的孤立感を解消し、生きがいを持って生活できるようにする。また、高齢者を取り巻く地域において、見守り活動チーム等の人材育成、地域資源を活用したネットワークの整備、先進的事業の立ち上げ等の事業を行えるようにする。	

事業の実績		Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	生きがい創造の事業	老人クラブ会員に対して陶芸教室・木彫教室・園芸教室の開講	
	シルバーカードの交付申請	65歳以上の市民に対してシルバーカードの発行	
	地域支え合い体制づくり事業	見守り活動チーム等の人材育成、地域資源を活用したネットワークの整備、先進的事業の立ち上げ等の事業を行う団体等に対し、予算の範囲内において補助金を交付	

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
決算額	事業費	千円	444	15,975	3,311
	必要人員	人	0.06人	0.11人	0.27人
	必要人員費	千円	512	1,031	2,658
	事業費	千円	956	17,006	5,969
財源	国庫支出金	千円	296	15,827	2,867
	受益者負担				
	繰入金				
	市				
その他( )					
一般財源			660	1,179	3,102
受益者負担比率		%	-	-	-
結果指標名		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標	結果指標量	説明	3教室定員30人の合計参加者数		
	対前年比	%	71	60	50
	活動コスト	円	956,000	666,000	628,000
	単位当たりコスト	円	13,465	11,100	12,560

事業の成果		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
シルバーカード発行数	成果指標名	年度	300	300	120	80
	目標値(A)					
	実績値(B)		213	60	73	到達目標値
達成率(B/A)			71.00%	20.00%	60.83%	80
成果指標設定の考え方・式や説明						
外出の機会が多くなり、高齢者の閉じこもりが解消される。						

事務事業の評価		Check	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い い  C
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
	効率性の評価	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げ余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い い  C
有効性の評価	目的達成度 市民参画度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い い  C

進行年度(H25年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	生きがい創造事業は、老人クラブの一部の会員のみが継続した利用となっており、受講生も減少傾向にあることから、補助額を2-2.5%減額とする。

総合評価		Action	
総合評価	高齢者が創造的活動を通じて生きがいを持って生活することは、介護予防の観点からも重要であるが、受益者の偏りがみられる。	総合評価	ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い い  C

平成26年度の方向性・取組目標	
方向性	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
取組目標	生きがい創造事業は、受講者の偏りがみられるので、新規受講者の掘り起こしを行う。

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな